

シリーズ「グローバル・ジャスティス」
第18回

西半球における麻薬テロ



Mario Núñez Mariel

The Rutgers Institute for Transnational Mexican Studies 所長

予期せぬ戦争がメキシコで勃発し、西半球に広がりを見せている。それは今までになかったタイプの戦争である。一方で麻薬カルテルがその権勢を振るう不法武装集団間の戦争であると同時に、他方ではそれら麻薬武装勢力と米州の民主国家との交戦に至っている。メキシコで5万5千人以上の死者を出していることから、その暴力性と残虐さは明らかである。麻薬テロとは何なのか？資本主義の崩壊の予兆なのか？和平への展望と可能性やいかに？

Mario Núñez Mariel Weekly column is published in 42 mexican newspapers; is an international analyst and consultant; is preparing the publication of the first volume of the History of Democratic Transition in Mexico; and is the director of Rutgers Institute for Transnational Mexican Studies (RITMoS), a subsidiary of the New Jersey State University of Rutgers.

同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科では、連続セミナー「グローバル・ジャスティス」を開催いたします。このセミナーは、現代世界が直面するさまざまな課題における「ジャスティス」の問題を、講師が自らの視点で語っていくものです。したがって、どのような視角で、何を問題としてジャスティスを論じるかは講師にゆだね、主催者は一切の方向性をあらかじめ規定いたしません。ジャスティス(正義)という言葉のもつ多義性や問題性もふくめて、多様な議論の場として提供していくものです。

日時： **11** 月 **9** 日 (水)

17:30-19:00

会場：博遠館 **212** 番教室

来聴歓迎・予約不要
スペイン語/講演字幕・通訳付

同志社大学
グローバル・スタディーズ研究科

tel. 075-251-3930

e-mail. ji-gs@mail.doshisha.ac.jp